

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4670600149号
法人名	医療法人互舎会
事業所名	グループホームはまなす
所在地	鹿児島県阿久根市脇本9093番地2 (電話) 0996-75-0320
自己評価作成日	平成25年9月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	2013/12/9

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体の医療機関内に設置されている利点を活かし、医療面での24時間早期のバックアップ体制が整備されています。利用者様及び御家族の一人ひとりの思いや希望を大切にしながら、安心と尊厳のある生活が送れるように支援しています。はまなすは地域の高台に位置しており、散策時にはお寺や学校、スーパーや、阿久根大島が浮かぶ海が眺望できます。近くの文丹保育園との交流会も利用者がとても楽しみにしている行事でもあります。保育園の夏祭りにははまなすの職員も手伝いに行き園児とのふれあいを深めています。また、地域の人たちがボランティアで踊りや、太鼓、ハーモニカ演奏に来てくださり利用者様との交流を深めながら楽しみのある生活が送れるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

阿久根市街地から長島に向かう途中の自然環境に恵まれた景観のいい地に建てられているグループホームである。母体医療機関に併設されており、24時間バックアップ体制が整備されていることから利用者・家族・職員の安心に繋がっている。また、タイムリーな医療支援は利用者・家族の希望するホームでの重度化・終末期ケアにも繋がり、医師・看護師・家族・職員がチームとなって看取り支援にも取り組んでいる。利用者の生活歴や特質を引き出し、個性を活かせるように細やかな支援計画を作成して個々に応じた個別性のあるホームでの生活を支援している。職員異動や離職がほとんどなく、介護に精通した管理者・職員による質の高いサービスの提供がなされ、理念に謳っている尊厳と自立を妨げない介護を目指して日々邁進している。職員の自己研鑽意欲も高く、毎月2回行われるホーム内勉強会には毎回全員が参加して資質向上に努めている。また、資格取得にも意欲的で働きながら学ぶ環境と職員同志互いに切磋琢磨しながらスキルアップを目指し、現在、介護支援専門員・介護福祉士・ヘルパー2級・調理士とほぼ全員が有資格者である。運営推進会議に家族の参加が多く、毎回半数近くの参加が得られている。また、参加者も民生委員・地域アドバイザー・交流のある保育園長・老人クラブ会長・消防署職員と幅広く、多方面からの意見や助言などがホームの運営や地域交流に活かされ、充実した会議となっている。ホーム内が明るく穏やかで安心して生活できている様子が利用者の表情からも伺われる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	グループホームはまなす 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ホームの理念である尊厳、安心、自立を柱として触れ合いを大切にしながら、安心して暮らせる環境を提供している。	開設当初に職員全員で作上げた理念である。文言に「あなたと家族の絆、地域とのふれあいの大切さを支えていきます」とあり、地域との関係性を重視している。理念は事務室や廊下、食堂と職員が目につきやすい場所に掲示し、日常の業務の中や職員会議など折に触れ理念を振り返り共有と実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的とはいえないが地域の運動会や、物産館などへ出かけたり、保育園の夏祭りには職員が毎年手伝いに行き喜ばれている。	近隣の保育園との交流が盛んで毎年利用者手作りの雑巾の寄贈や夏祭りの手伝い、バザーへの提供品の協力などしており、園児たちの訪問は利用者に大変喜ばれている。また、実習生、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。利用者も地域の物産館に出かけたり散歩などで気軽にあいさつを交わすなど地域との良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の人達が、ホームへ入居申し込みや見学に訪れた際、認知症に人の理解や支援の方法を話している。実習生の受け入れもして、認知症の講演会には家族に案内文を送付している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では利用者状況や日常的な取り組みなどを報告し、家族、推進委員、行政の方達から出された意見をケアに活かせるようにしている。	運営推進会議は2カ月に1回、地域アドバイザー・民生委員・老人クラブ会長・保育園長・消防署職員・家族・行政等の出席を得て定期的に開催している。家族は固定せずに全員に参加を促しており毎回多数の参加が得られている。避難訓練・救急救命講習・認知症の勉強会なども行っており、毎回幅広い参加者により意見や助言をもらいホームの運営や地域交流に活かして充実した内容の会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、包括支援センターの職員、生活保護の担当者の方達と、定期的に情報交換し利用者の実情を伝えている。市町村との連携を図り、ご協力を頂いている。	生活保護受給者・成年後見人制度を利用している利用者もおり、市町村とは常に連携を図って協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみとして自由に外に出たり、束縛しないで自由に暮らせるような配慮をしている。禁止の対象になる行為等勉強会で再確認し、身体拘束をしないケアの実践をしている。	重要事項説明書に「原則として身体拘束は行いません」と明記されている。また、法人で行われる身体拘束委員会に参加し、職員会議時に勉強会を行って、身体的・精神的弊害を理解し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。日中はホーム内すべて施錠することなく職員の見回りや連携で安全で自由な生活を支援している。	
7		平成25年12月9日 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面だけでなく言葉や、態度などケアの全てが虐待にならないよう、常に申し送りや勉強会で自身の振り返りをしている。併設病院の医療安全身体拘束廃止委員会に毎月出席している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度への理解は勉強会で研修しており。知識の習得や、個々の利用者の利用状況を理解している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時や入居決定時、重要事項の説明や運営規定の説明をし、理解、納得していただいた上で契約している。料金の説明も文書で交付している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の思いや、家族の思い、希望や意見、提案など何でも気軽に話せるような雰囲気を作っている。面会時に個別に家族の意向を聞いて運営に反映させている。	開設当初からの職員も多く、家族との信頼関係が築かれており、家族が職員に対して意見等を表しやすいように努め、面会や電話連絡の際に家族から意見、要望を聞き出すようにしている。また、毎年、アンケートも実施している。利用者からは日常の会話の中で意見、要望を引き出すようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の勉強会や日々の勤務の中で個々のスタッフのホーム運営に関する意見を気軽に提案できる機会を設け、反映している。	日常の業務の中や月2回の勉強会時に職員から意見・提案を出してもらい運営に反映させている。また、連絡帳を作成し、情報の共有を徹底している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今までボランティアで行っていた業務に時間外手当を貰ったり資格手当や介護手当での支給など。職場環境は改善しておりスタッフも向上心を持って働いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修には全職員が交代で参加している。病院合同の研修やホームヘルパーの資格取得など、意欲を持ってスキルアップに努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区グループホーム協会に加盟して研修や交流の機会を持ち、他事業所の取り組み等を知り業務の見直しや改善に役立っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	表情や、動きなどを観察し洞察しながら本人の不安を受け止めホームの職員や他の利用者に対して、安心感を得られるような言葉掛け、配慮をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームの見学時や利用開始時には家族が困っている事、不安に思っていることや要望など聞いて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時や、直ぐに入居できない時など今必要な支援方法を一緒に考えて他の事業所(デイサービス、訪問介護、小規模多機能など)紹介して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事をしてもらいながら一緒に生活している人生の先輩として捉えて関わっている。生活、知恵、文化など学ばせて頂く場面も多く支えあう関係ができてきている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや、電話、面会時に利用者の心身の状態を伝えており、家族と共に利用者を支える関係性を構築している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人(家族、地域の友人知、人関係者)との交流や馴染みの場所(自宅、かかりつけ医、お店、お墓)へ出かけ関係が途切れないような支援をしている。	お墓参りや自宅訪問、馴染みのお店など本人・家族の希望に応じて支援している。また、友人・知人の訪問も多く、訪ねやすいように明るく、開放的なホームの雰囲気作りに配慮している。地域行事見学も知人との交流の機会となっており、可能な限り個々に応じた関係継続の支援に努めている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングや食卓椅子などの座る場所は馴染みの関係性を把握して調整している。利用者同士がお互いの居室を訪問したりして関係性が継続できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	骨折などで入院したり、協力病院に1時入院される利用者にも面会に行き、これまでの関係性を大切にしながら、不安感の軽減が図れるよう、本人家族の相談や支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や、意見を聞きながら、その思いを受け止め本人の意向に沿った暮らしが継続できるようにケアプランに活かし、支援している。	利用当初は生活歴やバックグラウンドアセスメントを参考にし、その後は生活の中や会話から得られた職員の気づきや情報を基に思いや意向を把握し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の暮らしの中やお茶の時間、家族の面会時に得られた情報をケース記録に記載肢、勉強会で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活パターンをアセスメントし、行動、言動をケース記録に記録したり、連絡帳、申し送り等で利用者の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月2回の勉強会や、3ヶ月に1回のモニタリング、受診時に主治医の意見を聞きながら本人の希望、家族の思い、職員や必要な関係者と話し合いながら現状に即した介護計画を作成している。	地域密着型サービスとして、家族や知人、地域との関わりなどをサービスに取り入れ、利用者の生活の質の向上、活性化に結び付けた内容の介護計画を作成している。また、3カ月ごとにモニタリングを行って、見直しの必要性を職員間で検討している。入退院後や必要に応じて随時見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。また、モニタリングについては職員はどの家族にも説明できるように徹底させ	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録、職員の申し送り帳や連絡帳、インシデント報告書、サービスチェック表に具体的に記録して職員間で情報を共有しながら実践や、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	協力医療機関への受診介助や、外出。外泊準備、理美容の利用、外泊準備、洗剤や紙パンツ等の購入など家族に代わってできる支援は柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の生産直売のお店に出かけお茶を飲んだり、馴染みの場所に出かけドライブしたりして生活を楽しむことができるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設病院受診時には同行して心身の状態を報告しながら、医療との連携を図っている。状態をしっかりと伝えて、適切な医療が受けられるよう配慮している。	利用者及び家族の希望するかかりつけ医となっている。協力医療機関以外の受診は原則家族にお願いしているが、緊急時や家族の状況に応じてホームでも柔軟に受診同行を行っている。また協力医療機関とは24時間連携が図られており、本人・家族・職員の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	併設病院の看護職員と、24時間バックアップ体制が整い、利用者の状態をタイムリーに伝え、相談しながら、異常の早期発見と状態の悪化防止に努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	併設病院のDrや看護師、ソーシャルワーカーと、利用者の心身の状態をタイムリーに情報交換しながら連携を深め、早期に退院できるように協力体制を構築している。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	本人や家族に対して終末期の希望を聞きながら医療との連携を図りながら看取りケアを実施した。看取りケアの指針を作成し家族や運営推進会議で説明している。看取りケアに付いて、同意書の確認も随時貰っている。	重度化や終末期に向けたホームの指針と看取りケアについての同意書も作成している。これまでに本人、家族の希望による看取りの経験もあり、職員も方針を共有して医療との連携を図りながらホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	応急手当や初期対応に対してはマニュアルや勉強会で研修している。阿久根消防署の救急救命講習を全員受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設病院の災害防止対策委員会に毎月出席したり、毎月避難誘導通報訓練を、病院職員の協力を貰いながら実施して利用者を安全に避難誘導できるように訓練している。</p>	<p>年2回消防署立ち会いの避難訓練と毎月あらゆる場面を想定した自主訓練を行っている。訓練終了後に運営推進会議を行うこともあり、家族や参加者からの気づきや助言を安全対策に活かしている。隣接する病院、職員寮とは協力関係が築かれており、スプリンクラーは設置済みで備蓄も確保されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人の人として尊厳することは運営理念に掲げ、全職員で意識している。勉強会で個々の言葉使いや、対応を振り返り、自己覚知に努めている。	理念にも謳っているように尊厳・自立に向けたケアの実践に取り組んでいる。また、日常の関わりで個々に応じた声かけやプライドを損なわないような言葉かけに配慮しながら対応している。定期的に勉強会も行って職員の資質の向上に向けて取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外気浴や散歩、空調設備の利用レク参加の有無、家族への電話の取次ぎ、昼寝など一人ひとりの希望を表出できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	週単位、1日の流れは設けているが強制することは無く一人ひとりのペースで生活されている。今どうして過ごしたいか希望を聞きながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問理美容を定期的にご利用して、好みの髪型にして、おしゃれを楽しまれている。整容が不十分な方についてはさりげなく手助けしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で取れた季節の野菜を使って料理したり農、海産物直売所で購入した野菜や魚を使って下ごしらえや、配膳、片付けをしてもらいながら食事を楽しまれている。	個々の分量に応じて出来ることは職員と共に行っている。また、春は山菜採りに出かけ、家庭菜園の収穫などで四季を感じてもらっている。ときには、気分を換えて、テラスでお茶を飲んだり、花見の際はお弁当を楽しんだりしている。誕生日には個別支援として利用者の希望による外食などにも出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの好みの食材や硬さを把握しており、水分量や食事の摂取量を記録し、咀嚼、嚥下力に応じた調理をして提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアは確実に一人ひとりのできる力に応じて介助している。舌垢の除去や口臭の軽減などに努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表や、本人の動き、表情観察、時間誘導でトイレでの排泄を促している。排尿や排便があったら、共に喜び排泄の自立に向けた支援を行っている。	排せつチェック表を作成して個々の排せつのパターンを把握し、身体状況に問題がない限り昼夜間ともトイレでの排せつを支援している。自立している利用者もおり、維持できるように職員のさりげない声かけや誘導を行っている。入居後に改善された利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の多い食材や野菜を多く取り入れ、牛乳、ヨーグルト、サツマイモなど提供して便秘予防に努めている。水分補給の必要性も説明しながら便秘予防に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	本人の意思を尊重しながらタイミングに合わせて入浴して貰っている。曜日はきめているが他の棟での入浴も可能である事を伝えている。	基本的には週3回を目安としているが個々の希望や身体状況に応じて柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を通じて生活のリズムを整え、メリハリをつける支援をしている。昼寝も自由にして貰い、照明や室温など安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月の利用者振り返り時、服薬状況を確認している。薬の変更があった場合、臨時処方薬は連絡帳、ケース記録に記載し症状の変化など、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の持てる力を発揮して貰い有用感が感じられるように場面作りをしている。ドライブや買い物、ボランティアの訪問等楽しい時間を過ごせるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へは日常的に出かけているが、地域への外出や普段行けない様な場所への外出はあまり行っていない。病院スタッフの応援を貰いながら造形展への外出支援も計画している。家族の協力を得てお墓参りなど行かれている。	日常的には散歩やテラスを利用して外気浴を行い、個々の希望に応じてドライブを兼ねた買い物同行、自宅訪問、墓参りなどにも出かけている。時には、地域行事見学、保育園交流、弁当持参の季節の花見、鶴見学、長島造形展など外出を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームで管理している小遣いを持って生産直売所に行き自分でお金を払ったり必要な物品(紙パンツ、洗剤等)の購入にお金を払う機会を設けている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人が希望された時には家族や知人と電話で語れるように支援している。毎月の頼りにコメントを書いてもらい生活の様子を伝えている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激(音、光、色、広さ、湿度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>テーブルには季節の花を生け、居間や食堂に行事等の思い出の写真飾っている。テラスにはベンチを置きいつでも外気浴が楽しめるよう工夫をしている。音や光が不快や不安な気持ちにならないよう配慮している。</p>	<p>共用空間は明るく広くウッドデッキに直接出ることができるため開放感がある。食事用の大きなダイニングテーブルとテレビを見るくつろぎのソファがあり、利用者は思い思いの場所でくつろげる配慮がなされている。日当たりのいい窓際は冬場は日光浴の場所となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居間にはソファを置き、食卓の隅や玄関にも椅子を置き外が自由に眺められたり、思い思いに過ごせるよう座る場所等、気の合う人とゆっくり過ごせるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの荷物や寝具など好みの物品を居室において使用されている。写真や壁掛けなど飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室は広く、使い慣れたものや馴染みの物品が持ち込まれ、仏壇を持ち込んでいる利用者もいる。趣味の本やお気に入りの飾り物、家族の写真など居心地良く過ごせるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが付けてあり歩行が不安定な人も安全に歩けるようにバリアフリーの作りになっている。自室が分かるように居室の入り口には本人の写真が貼ってあり建物は自立した生活が送れるよう工夫してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
		グループ ホームは	3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		#####	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない